

従属節中の文体的倒置と情報構造について

谷口 永里子
(京都大学大学院)

本発表では、従属節中の主語名詞句と動詞が倒置されている文体的倒置について扱う。倒置は関係節をはじめ、様々なタイプの従属節に現れる。

- (1) [...] parce que ne comptent pour toi ni le temps ni l'histoire : c'est Ballanche. (Ormesson, 1993)
- (2) Tu vas me faire gober que tu n'es même pas sûr du métier que faisait ton grand-père ? (Benoziglio, 1980)
- (3) Les derniers oiseaux se sont tus depuis longtemps lorsque retentit dans les bois le hullement d'une chouette. (Simon, 1981)

このような従属節中の倒置に関して、Lahouse(2011)は従属節中の倒置主語はトピックと解釈されない、と主張している。(1)のような断定を表す従属節では、内部に情報構造が存在するため、主語がトピックと解釈されないような特徴を持たなければ倒置が容認されないという制約があり、そのために断定の従属節中の倒置の数は少ないと指摘している。ただし明確な割合は提示されておらず、各従属節の正置 SV と倒置 VS の割合は明らかではない。また、(2)(3)のような前提を表す従属節について、従属節の内部に情報構造が存在しないため、倒置主語がトピックと解釈されることはないため、断定の従属節中の倒置にかかる制約がないと指摘しているが、前提を表す従属節中の倒置の積極的な要因については分析されていない。

これを踏まえ、本発表ではまず、様々なタイプの従属節中の SV と VS の割合を提示し、断定を表す従属節と前提を表す従属節の中の倒置の生起頻度の差について明らかにする。そして、前提を表す従属節中の倒置に関わる意味的要因・統語的要因について考察し、主語が動詞より情報の重要度が高い場合に倒置が起こることを明らかにする。従来、前提を表す従属節中には情報構造がないと言われてきたが、「情報の重要度」という意味では情報構造が前提を表す従属節にも存在し、情報構造に従って語順が選択されていることを示す。